

福岡県朝倉二次医療圏における肝炎検診促進事業に関する研究

研究分担者：上野 隆登 朝倉医師会病院・病院長

研究要旨：私共は福岡県朝倉二次医療圏において約1年間肝炎検診促進事業の取組を行ってきた。具体的には、昨年1月佐賀大学、久留米大学、地元朝倉医師会の協力を得、福岡県南、まずは朝倉医療圏での肝炎検診促進事業の普及を目的とした。その後、地元の北筑後保健福祉環境事務所・朝倉市・筑前町・東峰村・朝倉医師会病院の関係者が集い肝炎検診促進会議を開催し肝炎検診促進に向けた活動計画を立てた。3月、同医療圏の肝炎検診促進の研修会を開催し、その意義の共有化を図った。4月からの市町村の健康診断実施に併せて肝炎検診の促進を図った。7月には厚生労働省「知って、肝炎プロジェクト」チームの表敬訪問、並びに肝炎検診住民の集いも開催し、住民に肝炎検診の重要性を訴えた。その結果、10月末時点で受診者数、健診受診者に対する肝炎検診受診者比率ともに昨年度より著明に増加した。ここ1年間の取組により、住民への肝炎検診の浸透が図られた。今後、肝がん撲滅のため肝炎検診受診率の向上、並びに精密検査対象者の100%肝炎専門医療機関への受診の促進が重要と思われた。

A．研究目的

肝炎、肝硬変、肝細胞癌多発地区である福岡県朝倉医療圏における住民の肝炎健診受診の促進を図り、早期発見、早期治療を促し、肝細胞癌の撲滅を目指す。

B．研究方法

北筑後保健福祉環境事務所・朝倉市・筑前町・東峰村・朝倉医師会病院の関係者が集い肝炎検診促進会議を開催し肝炎検診促進に向けた活動計画を立てた。

3月、同医療圏の肝炎検診促進の研修会を開催し、その意義の共有化を図った。5月からの市町村の40歳以上の健康診断実施に併せて肝炎検診の促進を促した。7月には厚生労働省「知って、肝炎プロジェクト」チームの表敬訪問、並びに肝炎検診住民の集いも開催し肝炎検診を促した。本年10月までの健診対象人口に対する肝炎検診者の比率を算出し、平成22年度からの比率とも比較した。

（倫理面への配慮）

解析にあたり対象者には番号を振り匿名化を図り個人情報の流用を避け、人権への配慮と個人の不利益を排除した。

C．研究結果

平成21年度から福岡県がはじめた、「肝炎ウイルス総合対策事業」の開始翌22年から朝倉医療圏における肝炎検診者の対象住民人口比率の推移は、平成23年から増加傾向となり、本年度は10月末時点で昨年度の受診者数、比率ともに著明に増加した(表1)。

		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28・10月まで
男性	受診者数	5	165	368	346	249	357	343
	人口	24,106	24,084	24,196	24,388	24,434	24,549	24,554
	受診率	0.02%	0.69%	1.52%	1.42%	1.02%	1.45%	1.40%
女性	受診者数	10	248	446	428	405	388	532
	人口	29,570	29,564	29,528	29,595	29,633	29,621	29,567
	受診率	0.03%	0.84%	1.51%	1.45%	1.37%	1.31%	1.80%
男女計	受診者数	15	413	814	774	654	745	875
	人口	53,676	53,648	53,724	53,983	54,067	54,170	54,121
	受診率	0.03%	0.77%	1.52%	1.43%	1.21%	1.38%	1.62%

D．考察

昨年1月から朝倉医療圏における肝炎検診の重要性を住民、医師、行政に訴え、かつ「知って、肝炎プロジェクト」チームの地元自治体への訪問の後押しもあり、前年度までの肝炎検診受診者、受診率も大幅に飛躍した。今後、肝がん撲滅のため肝炎検診受診率の向上、並びに精密検査対象者の100%肝炎専門医療機関への受診の促進が重要と思われた。

E．結論

ここ1年間の取組により住民への肝炎検診が浸透し、かつ今後の肝炎検診の継続、並びに精密検査対象者の100%受診の促進が重要と思われた。

F．健康危険情報 なし

G．研究発表 なし

H．知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。） なし

1. 特許取得 なし、2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

協力団体：北筑後保健福祉環境事務所、朝倉市、筑前町、東峰村、朝倉医師会、久留米大学消化器内科、佐賀大学肝疾患医療支援学